

2016年2月期 第3四半期 決算補足資料

2015年12月29日

株式会社アダストリア
<http://www.adastria.co.jp/>

I. 営業報告

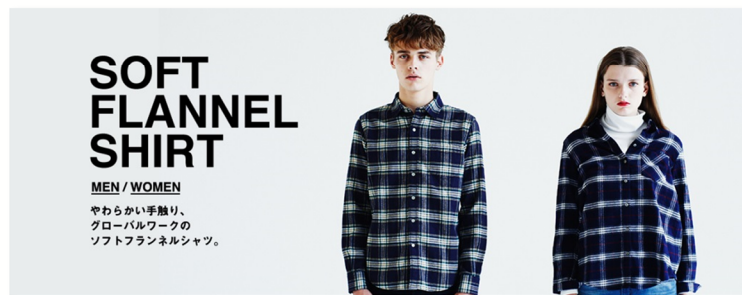
・ 営業報告	3
・ ブランド別報告	4
グローバルワーク	4
ニコアンド	5
・ WEB事業	6

II. 2016/2期 第3四半期業績

・ 連結損益計算書	7
アダストリア単体	9
・ 海外事業	11
・ 連結貸借対照表	12
・ 通期出店計画	13
・ 連結通期予想	14

▶ 秋冬シーズンの立ち上がりは好調

- 商品力の向上
- ブランド特性の追求
- WEB売上の好調持続
- ワイドパンツ・ロングカーディガンなどのヒット商品
- 前半は11月に気温が低下したものの、11月は記録的な暖かさ



<グローバルワーク ソフトフランネルシャツ>



<ヘザー Heather Diary ハロウィンキャンペーン>

第3四半期の営業についてのご報告をいたします。

2016/2期第3四半期の3ヶ月間では、既存店売上高前年比106.6%と秋冬シーズンの立ち上がりとしては好調にスタートしました。

要因としては、上期の好調要因とほぼ重なりますが、従来から取り組んできた自社生産商品の商品力が向上したこと、ブランド特性を追求し、それぞれの個性に合った仕入の形態やMD政策がとられたこと、WEB売上の好調が持続していること、ワイドパンツやロングカーディガンなど、秋物についてはヒット商品があったこと、が挙げられます。

商品力の向上は、グローバルワークのように自社商品を中心に商品を展開しているブランドで成果が顕著に現れましたが

一方でヘザーというブランドはヤングマーケットのトレンドをしっかりとらえ、ミーハー路線を貫くというブランド特性を追求し、

自社生産にこだわらず、トレンドの変化に素早く対応するよう外部からの仕入商品中心の商品構成でブランドの個性を立たせていくことができました。

天候面では、10月上旬までは例年以上のペースで気温が低下して、申し分ない秋の立ち上がりでしたが、11月は暖かいまま季節が進まず、売上はやや弱含みました。

売上高（累計）：261億円（前年同期比118.2%）
 売上高（第3四半期3ヶ月）：90億円（同123.0%）

- 大型店舗モデル（イオンレイクタウン店）・都市型店舗モデル（池袋サンシャインシティ店）がいずれも順調に推移
- TVCM・イベント等、ブランドの世界観を伝えるプロモーションを継続して実施



<池袋サンシャインシティ店>



<秋冬新CM発表会 “ESCAPE” The Winter Party 2015 >

グローバルワークは第3四半期までの累計で売上高261億円 前年同期比118.2%と引き続き好調に推移しました。

標準店舗モデルの確立を進める中で、
 大型店舗モデルであるイオンレイクタウン店
 都市型店舗モデルである池袋サンシャイン店はいずれも順調に推移しております。

また、10月末からのTVCM放映に当たり、ブランドパートナーである大沢たかおさん、長澤まさみさんをお招きして新CM発表会を催すなど、リブランディングしたグローバルワークの世界観をさらに多くの方に知っていただく取り組みを進めております。

売上高（累計）：165億円（前年同期比112.8%）
 売上高（第3四半期3ヶ月）：55億円（同112.0%）

- 自社生産機能を活用し、計画的な生産・販売戦略を策定することで商品供給と店頭表現の連動を強化
- ラインアップ別の商品企画体制の整備
- トレンドMD・デイリーに使えるベーシックアイテムの品揃えを拡充



<秋冬シーズン販促企画の一例>



<Numerals イメージビジュアル>

ニコアンドは第3四半期までの累計で売上高165億円 前年同期比112.8%と、秋冬ものから商品ラインアップとそれに合わせた商品企画体制が整備された結果、はっきりと売上トレンドが好調に転じてまいりました。

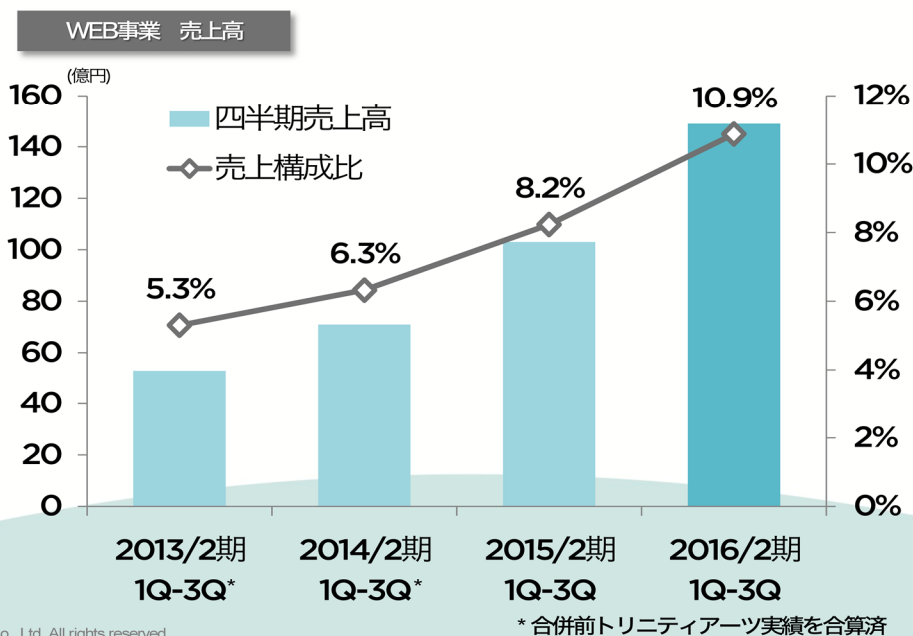
自社生産機能を活用して計画的な生産・販売戦略を策定し、売るべきタイミングでしっかりと店頭の商品を揃え、店内のビジュアルや販促企画も連動させてお客様に訴求することができました。また、ワイドパンツなどのトレンドアイテムや、手頃な価格でデイリーに使えるベーシックアイテムを充実させることで、新しいお客様が増えています。

11月にはユニセックスライン“Numerals”をデビューさせるなど、新しい取り組みも始まり、当社の基幹ブランドとしての成長を続けてまいります。

売上高（累計）：149億円（前年同期比143.3%）

WEB構成比：10.9%

- 会員数 400万人突破
- 自社ECサイト・他社ECサイトともに好調



次に、WEB事業ですが、

第3四半期までの累計売上高は前年同期比143.3%の149億円と、引き続き好調に推移しています。

国内売上に占めるWEB売上比率は10.9%となりました。

自社ECサイトである[.st]ドットエステの会員数は400万人を超え、

自社・他社サイトともほぼ同程度の伸びを続けております。

自社ECは旧ポイント・旧トリニティアーツのサイト統合から1年が経過しましたが、カスタムオーダーサービスの導入やCRMツールの刷新など

さらなる拡大を目指していきます。

(百万円)

(連結)	2015/2期 第3四半期				2016/2期 第3四半期					
	9ヶ月累計		3ヶ月		9ヶ月累計			3ヶ月		
		構成比		構成比		構成比	前年同期比		構成比	前年同期比
売上高	133,707	100.0%	45,655	100.0%	146,814	100.0%	109.8%	49,782	100.0%	109.0%
売上総利益	77,308	57.8%	27,771	60.8%	86,063	58.6%	111.3%	30,511	61.3%	109.9%
販管費	71,690	53.6%	24,191	53.0%	71,715	48.8%	100.0%	24,296	48.8%	100.4%
広告宣伝費	5,481	4.1%	1,891	4.1%	4,586	3.1%	83.7%	1,883	3.8%	99.5%
人件費	23,854	17.8%	7,584	16.6%	24,702	16.8%	103.6%	8,201	16.5%	108.1%
設備費	28,563	21.4%	9,783	21.4%	29,336	20.0%	102.7%	9,890	19.9%	101.1%
のれん償却費	1,815	1.4%	607	1.3%	1,667	1.1%	91.8%	546	1.1%	89.9%
その他	11,975	9.0%	4,324	9.5%	11,424	7.8%	95.4%	3,775	7.6%	87.3%
営業利益	5,618	4.2%	3,580	7.8%	14,347	9.8%	255.4%	6,214	12.5%	173.6%
アダストリア単体 *1 (のれん償却費除き)	8,763	-	4,815	-	15,455	-	-	6,459	-	-
海外 *2	▲ 1,137	-	▲ 381	-	▲ 326	-	-	▲ 107	-	-
N9&PG *3	275	-	162	-	▲ 190	-	-	-	-	-
アダストリア・ロジスティクス *3	-	-	-	-	100	-	-	100	-	-
経常利益	5,949	4.4%	3,775	8.3%	14,665	10.0%	246.5%	6,341	12.7%	168.0%
純利益	1,210	0.9%	1,100	2.4%	7,964	5.4%	658.1%	3,807	7.6%	345.9%
EBITDA	12,487	9.3%	5,970	13.1%	20,551	14.0%	164.6%	8,278	16.6%	138.6%
減価償却費	5,054	3.8%	1,783	3.9%	4,536	3.1%	89.8%	1,517	3.0%	85.1%
のれん償却費	1,815	1.4%	607	1.3%	1,667	1.1%	91.8%	546	1.1%	89.9%

*1：アダストリア単体の2015/2期実績は、ポイント・トリニティアーツ・バビロン・ホールディングス単体を合算して比較可能としたもの
2016/2期より、ポイント・トリニティアーツ・ホールディングス単体が統合し、下期からさらに生産部門（旧N9）を統合している。

*2：海外は5法人(香港・台湾・中国・シンガポール・韓国)の単純合算

*3：2016/2期 下期より、N9&PGの物流部門がアダストリア・ロジスティクスに商号変更

ここからは主に第3四半期3ヶ月の業績動向についてご報告いたします。

グループ内で企業再編を続けてきたため、連結損益計算書をご覧になる際に、留意していただきたい点がいくつかございます。

まず、アダストリア単体は2015年3月にポイント・トリニティアーツ・ホールディングスを合併してできた企業体ですので

2015年2月期実績はポイント・トリニティアーツ・バビロン・ホールディングス単体を合算して比較可能としたものであって、

正式な監査を受けた実績ではございません。

また、2016年2月期の下期より、旧N9&PGの生産部門をアダストリア単体に統合しましたので、

2016年2月期上期までのアダストリア単体と、同3Qのアダストリア単体のビジネス構造は異なっております。

可能な限り同じベースに修正して変化を説明したいと思っておりますが、ご留意ください。

好調な既存店売上高を背景に、6期ぶりに過去最高益を更新

- **売上高：497億円（前年同期比109.0%）**
国内既存店売上高前年比106.6%と好調持続。
- **売上総利益率：61.3%（前年同期比+0.5p）**
円安による原価上昇はあるものの、値下げロス削減により改善。
- **販管費率：48.8%（前年同期比▲4.2p）**
 - 広告宣伝費：3.8%（同▲0.3p）金額ベースではほぼ前年並み
 - 設備費：19.9%（同▲1.5p）出店数削減
 - その他：7.6%（同▲1.9p）前3QにSG退店費用等を計上
- **営業利益：62億円（前年同期比173.6%）**
営業利益率12.5%（前年同期比+4.6p）、EBITDAマージンは16.6%（同+3.6p）と大幅に改善。
- **純利益：38億円（前年同期比345.9%）**
損金算入されないのれん償却費に対する税前利益の増加、子会社赤字額の削減による連結ベースでの税率低下により、大幅増益。

第3四半期も好調な既存店売上高を背景に、6期ぶりに過去最高益を更新致しました。

売上高は、前年同期比109.0%の497億円でした。

国内で既存店売上高前年比が106.6%と好調に推移していることに加え、海外も二けた成長を続けております。

売上総利益率は61.3%で前年同期比0.5p改善しました。

円安による原価上昇はあるものの、国内・海外ともに値下げロスの削減が寄与しています。

販管費率は48.8%で前年同期比4.2p改善しました。

売上好調のため固定費部分の対売上比率が改善していることに加え、前年同期に比べて出店数を削減していることにより設備比率が1.5P低下、前3Qに計上していたシンガポールの退店費用等がなくなったため、その他経費率も1.9P低下しています。

営業利益は62億円で前年同期の1.7倍となりました。

金額にしますと26億円の増益ですが、今下期より生産本部を統合したアダストリア単体が大幅増益となっていることに加え、海外事業の赤字縮小、シンガポールの退店費用計上がなくなったこと等が増益要因となっています。営業利益率は12.5%、EBITDAマージンは16.6%と大幅に改善しました。

純利益は38億円で前年同期の約3.5倍となりました。

これは損金算入されないのれん償却費に対する税前利益が増加し、子会社赤字額も削減したために連結ベースでの税率が低下したためです。

(百万円)

	2015/2期 3Q *1		2016/2期 3Q			
	9ヶ月累計	3ヶ月	9ヶ月累計		3ヶ月	
				前期比		前期比
売上高	125,850	42,821	137,784	109.5%	47,113	110.0%
(既存店前年比)			105.5%	-	106.6%	-
グローバルワーク	22,124	7,354	26,159	118.2%	9,047	123.0%
ローリーズファーム	18,146	6,252	18,869	104.0%	6,430	102.8%
ニコアンド	14,658	4,959	16,534	112.8%	5,553	112.0%
スタディオクリップ	14,442	4,612	15,309	106.0%	4,689	101.7%
レプシムローリーズファーム	10,597	3,622	11,302	106.6%	3,985	110.0%
売上総利益	73,695	26,248	80,584	109.3%	28,589	108.9%
売上総利益率	58.6%	61.3%	58.5%	▲ 0.1p	60.7%	▲ 0.6p
販管費 (のれん償却費除き)	64,931	21,432	65,129	100.3%	22,129	103.3%
販管費率	51.6%	50.1%	47.3%	▲ 4.3p	47.0%	▲ 3.1p
営業利益 (のれん償却費除き)	8,763	4,815	15,455	176.4%	6,459	134.1%
営業利益率	7.0%	11.2%	11.2%	+4.3p	13.7%	+2.5p

出店	169	50	56	18
退店	25	4	40	5
改装	56	21	33	13
期末店舗数	1,279	1,279	1,263	1,263

*1：アダストリア単体の前年業績は、ポイント・トリニティアーツ・パピロン・ホールディングス単体を合算して比較可能としたもの

Copyright © 2015 Adastria Co., Ltd. All rights reserved.

次にアダストリア単体についてご説明いたします。

繰り返しとなりますが、前期の実績につきましては、ポイント・トリニティアーツ・パピロン・ホールディングスを合算して比較可能とした参考値です。

また、今下期より生産部門を統合しているの上期までのアダストリア単体とはビジネス構造が異なります。

- **売上高：471億円（前年同期比110.0%）**
 - 既存店売上高前年比：106.6%
 グローバルワーク・ジーナシス・ニコアンド・レプシムローリーズファーム等、
 主力ブランドが全社売上を牽引。
- **売上総利益率：60.7%（前年同期比▲0.6p）**
 生産部門（旧N9）の統合により前年同期比で低下したものの、
 小売部門は同+0.4pの改善と推定。
 円安による原価上昇の影響はあるものの、シーズン立上げ期から販売好調で
 値下げロスを削減。
- **販管費率（のれん償却費除き）：47.0%（前年同期比▲3.1p）**
 出店数の削減に加え、増収効果で対売上比率が改善。
- **営業利益（のれん償却費除き）：64億円（前年同期比134.1%）**
- **出退店**
 出店数は前年同期に比べて大幅に減少したが、主力ブランドを中心に計画通り出店。

売上高は前年同期比110.0%の471億円となりました。

シーズン始めから秋らしい天候が続いて秋物が順調に立ち上がり、
 既存店売上高前年比は106.6%でした。

ブランド別では、グローバルワーク・ジーナシス・ニコアンド・レプシムローリーズファームなど主力
 ブランドが売上を伸ばしています。

売上総利益率は60.7%と前年同期比0.6p低下していますが、
 生産部門統合の影響を除いた小売部門では+0.4Pの改善と推定しています。

円安による原価上昇の影響はありましたが、シーズン立上げ期から販売が好調であったため、
 無理な値下げをせずに販売することが可能となっています。

販管費率は47.4%で、前年同期に比べ3.1p低下しました。
 出店数の削減に加え、増収効果によって対売上比率は改善しています。

この結果、営業利益は小売としての実態を示すのれん償却費除きで64億円、
 営業利益率は13.7%と前年同期比2.5p改善しております。
 こちらも生産部門を除くとさらに+1.0p程度改善しているものと推定しています。

出退店につきましては、18店の出店、5店の退店と、出店数は前年同期に比べて
 大幅に減少しておりますが、計画通りの進捗となっております。

(百万円)

(海外現法単純合算)	2015/2期 3Q		2016/2期 3Q					
	9ヶ月累計	3ヶ月	9ヶ月累計			3ヶ月		
				前期比 (円ベース)	前期比 (現地通貨 ベース)		前期比 (円ベース)	前期比 (現地通貨 ベース)
売上高	7,504	2,690	8,947	119.2%	103.0%	3,010	111.9%	97.2%
香港	4,820	1,692	5,489	113.9%	97.0%	1,934	114.3%	96.8%
中国	898	328	1,467	163.4%	139.8%	502	152.9%	132.0%
韓国	99	99	665	-	-	222	-	-
台湾	986	329	1,143	115.9%	103.3%	362	110.1%	100.9%
シンガポール	700	240	181	-	-	-	-	-
営業利益 *1	▲ 1,137	▲ 381	▲ 326	-	-	▲ 107	-	-
香港	▲ 230	▲ 55	79	-	-	6	-	-
中国	▲ 378	▲ 114	▲ 142	-	-	▲ 33	-	-
韓国	▲ 163	▲ 108	▲ 254	-	-	▲ 110	-	-
台湾	▲ 24	4	75	-	-	27	-	-
シンガポール *2	▲ 341	▲ 107	▲ 84	-	-	-	-	-

*1：2015/2期の営業利益は、ホールディングスに支払うグループ運営費等計上前

*2：シンガポールの営業利益は、撤退費用を含まず

- **売上高：30億円 (前年同期比97.2% *現地通貨ベース)**
商品力・運営力の向上により、中国を中心に堅調な売上が継続。
- **営業利益：▲1億円 (前年同期比+2億円)**
MD計画の精度向上による値下げロス削減で、売上総利益率が前年同期比+5.6p改善。
シンガポール事業撤退・大型不採算店の閉鎖も赤字縮小に寄与。

Copyright © 2015 Adastria Co., Ltd. All rights reserved.

次に、海外事業のご説明をいたします。

売上高は30億円 現地通貨ベースではシンガポール撤退の影響もあり、前年同期比97.2%でした。

営業利益は▲1億円の赤字ではありますが、ほぼ計画通りであり、出店して1年が経過した韓国以外は損益を改善させることができました。

日本国内の商品に、現地の気候・嗜好に合わせて追加するMD計画が生まれ、適切な仕入・在庫コントロールで値下げロスが削減できた結果、売上総利益率が+5.6P改善したことに加え、シンガポールの事業撤退、大型不採算店の閉鎖も寄与しています。

(百万円)

(連結)	2014年11月末		2015年2月末		2015年11月末			
		構成比		構成比		構成比	2014年11月末比 増減額	2015年2月末比 増減額
流動資産	43,049	45.2%	34,488	41.2%	44,793	48.5%	+1,743	+10,304
現預金	5,355	5.6%	7,677	9.2%	8,992	9.7%	+3,636	+1,315
棚卸資産	19,794	20.8%	14,488	17.3%	19,668	21.3%	▲126	+5,179
固定資産	52,185	54.8%	49,253	58.8%	47,547	51.5%	▲4,638	▲1,706
有形固定資産	15,355	16.1%	12,908	15.4%	11,688	12.7%	▲3,667	▲1,220
のれん	8,669	9.1%	7,921	9.5%	6,039	6.5%	▲2,629	▲1,881
投資その他資産	26,736	28.1%	27,051	32.3%	28,265	30.6%	+1,528	+1,213
総資産	95,235	100.0%	83,742	100.0%	92,340	100.0%	▲2,894	+8,598
負債	48,688	51.1%	37,508	44.8%	38,935	42.2%	▲9,753	+1,426
有利子負債	13,692	14.4%	3,753	4.5%	1,935	2.1%	▲11,757	▲1,818
純資産	46,546	48.9%	46,233	55.2%	53,405	57.8%	+6,858	+7,171
自己株式	▲405	-0.4%	▲406	-0.5%	▲1,818	-2.0%	▲1,413	▲1,412

- **流動資産：447億円（前年同期末比+17億円）**
営業キャッシュフローの改善により、現預金が36億円増加。
棚卸資産は増収にもかかわらず、ほぼ横這い。
- **固定資産：475億円（前年同期末比▲46億円）**
有形固定資産・のれんは減少したものの、保有株式の株価上昇によって、投資その他資産が増加。
- **負債：389億円（前年同期末比▲97億円）** 有利子負債は▲117億円削減。
- **純資産：534億円（前年同期末比+68億円）** 13億円の自社株買いを実施。

Copyright © 2015 Adastria Co., Ltd. All rights reserved.

第3四半期末のバランスシートについて
ここでは、2014年11月末との比較でご説明いたします。

現預金は営業キャッシュフローの改善で36億円増加して89億円となりました。
棚卸資産は増収にもかかわらずほぼ横這いで、適正な水準にコントロールできています。
固定資産では、有形固定資産やのれんは減少していますが、
保有株式の株価上昇によって投資その他の資産が増加しております。
11月に20万株、13億円の自社株買いを実施しましたが、
純資産は534億円となり、純資産比率は57.8%に上昇しました。

	2016/2期 3Q 実績				
	期首	出店等	変更	退店	期末店舗数
グローバルワーク	178	7	0	▲ 2	183
ローリーズファーム *1	168	5	0	▲ 8	165
ニコアンド	116	7	0	▲ 1	122
スタディオクリップ	162	10	0	▲ 1	171
レプシムローリーズファーム	125	7	0	▲ 2	130
ジーナシス	89	1	0	▲ 2	88
レイジブルー *2	71	2	0	▲ 11	62
ヘザー	75	1	0	▲ 6	70
その他	263	16	0	▲ 7	272
アダストリア合計	1,247	56	0	▲ 40	1,263
(うちWEBストア)	(45)	(1)	(0)	(▲2)	(44)
その他子会社	3	0	▲ 3	0	0
(うちWEBストア)	(1)	(0)	(▲1)	(0)	(0)
香港 *3	24	5	1	▲ 3	27
中国 *4	34	15	0	▲ 8	41
台湾	26	1	0	▲ 1	26
シンガポール	10	0	▲ 1	▲ 9	0
韓国	12	5	0	▲ 4	13
海外合計	106	26	0	▲ 25	107
(うちWEBストア)	(7)	(5)	(0)	(▲2)	(10)
連結合計	1,356	82	▲ 3	▲ 65	1,370

*1：営業部合計。ミコアローリーズファーム（2016/2期3Q末 16店舗）、ミーパーセント（同9店舗）を含む

*2：営業部合計。スクオーバル（同0店舗）を含む

*3：ローリーズファーム イオンモールプノンペン（カンボジア）を含む

*4：代理商（同21店舗）を含む

第3四半期までの出退店の実績です。

退店は1月から2月末に集中しますので、

概ね第2四半期決算発表時にご説明した計画通りに進捗しております。

変更なし

(百万円)

(連結)	2015/2期			2016/2期 上期		2016/2期 下期		2016/2期 通期		
	実績			実績		修正予想 (9/30発表)		修正予想 (9/30発表)		
	上期	下期		前年同期比		前年同期比		構成比	前期比	
売上高	88,051	96,536	184,588	97,032	110.2%	101,000	104.6%	198,000	100.0%	107.3%
営業利益	2,038	3,943	5,981	8,132	399.0%	5,900	149.6%	14,000	7.1%	234.0%
経常利益	2,174	4,278	6,452	8,324	382.8%	6,000	140.2%	14,300	7.2%	221.6%
純利益	109	394	503	4,156	-	2,700	-	6,800	3.4%	-
ROE	-	-	1.1%	-	-	-	-	13.6%	-	+12.5p
EBITDA	6,517	9,215	15,732	12,272	188.3%	10,500	113.9%	22,700	11.5%	144.3%
減価償却費	3,271	4,085	7,356	3,019	92.3%	3,500	85.7%	6,500	3.3%	88.4%
のれん償却費	1,207	1,186	2,394	1,121	92.8%	1,100	92.7%	2,200	1.1%	91.9%

設備投資

10,936

7,000

最後に、連結通期予想ですが、現段階で変更はございません。

第3四半期までの業績は好調に推移し、

営業利益・経常利益・当期純利益はそれぞれ通期会社予想を上回って着地しました。

12月も概ね順調に推移しており、1月次第ではありますが、

現段階では通期会社予想を上回る可能性が高いと考えております。

しかしながら、適時開示基準に抵触するほど大きく上振れるとは考えていないため、

通期予想は9月30日に公表した予想値を変更しておりません。

修正の必要が生じることがあれば速やかに公表させていただきます。

また、連結通期予想を変更しないため、現段階では配当についても変更ありません。

但し、13億円の自社株買いを実施しているため、

総還元性向ではのれん償却前の連結純利益に対して45%となっております。

以上、簡単ではございますが、

第3四半期の営業状況報告および決算概要についてご説明いたしました。

業績予想の適切な利用に関する説明

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

その他留意事項

資料内の数値は百万円未満を切り捨て表示し、百分率は元データから算出しております。

ADASTRIA